


福井工業高等専門学校シーズ集【地域・文化部門】

所属部門	地域・文化	<b>専門分野</b> フランス哲学, 現象学
研究分野	哲学・倫理	
	佐藤 勇一 准教授	<b>キーワード</b> メルロ＝ポンティ, 間文化性, 視覚論, 身体論
	博士（文学） 一般科目教室（人文社会科学系） 哲学研究室 y-sato@fukui.kosen-ac.jp	

研究テーマ

【研究テーマ1】

メルロ＝ポンティの哲学を中心に、哲学・現代思想について研究しています。これまでに、メルロ＝ポンティ関連の翻訳に携わるとともに、メルロ＝ポンティが哲学以外の領域（心理学、キリスト教、芸術、人類学など）との対話を通じて、古典的な哲学（とくに17世紀）が問題にした「存在」「自然」「人間」の関係を、古典的な仕方とは別の仕方では捉え直していることを明らかにしてきました。今後は晩年の未公刊草稿も視野に入れることによって、メルロ＝ポンティ研究の深化を目指すとともに、後期思想の応用可能性について探り、メルロ＝ポンティ研究の拡張も目指します。

【研究テーマ2】

間文化現象学という、文化と文化の間で生起する間文化的な諸現象を現象学的に解明するプロジェクトに10年以上参加してきました。また、2018年よりp4c（子どもの哲学）という近年世界地の国や地域で実践されている哲学対話に取り組み、国内やハワイの教育実践から学び始めました。今後はp4cのような教育実践研究、身体に関する哲学以外の分野との共同研究、市民的知性の教育や市民との協働とも関わることによって、哲学研究（とくにメルロ＝ポンティ研究）を中心に他の分野と関わる新たな研究領域の創出を目指します。

【研究テーマ3】

これまでに、メルロ＝ポンティの芸術論を取り上げたり、ケプラーやデカルトの光学に関するメルロ＝ポンティの視覚論を、間文化現象学的に取り上げたりするなど、「視覚」を主要な研究テーマのひとつとしてきました。ジェイの視覚に関する著作『うつむく眼』の翻訳もしました。今後は、フランス哲学における視覚に関する考察を現象学のみ限定せずに取り上げたりすることによって、「視覚」や「技術」、「身体」に対して思想的にアプローチする研究に取り組んでいきたいと考えています。

産官学連携や地域貢献の実績と提案

2014年、15年に「公開講座 ラボール学園京都労働学校（公益社団法人京都勤労者学園）セミナー『哲学の名著を読む』」に講師として参加しました。また、2016年以降、「公開講座 中学生のための社会講座——高専の入試問題で学ぼう——」に講師として参加しました。JOINTフォーラム2016では、武生商工会議所にて「ポスター発表 未公刊草稿の観点から行うメルロ＝ポンティ哲学研究」を行い、2017年には福井高専地域連携アカデミア総会に特別講演講師として参加しました。2019年には高専カフェ「メルロ＝ポンティ思想紹介 -哲学と絵画・対話-」、立命館大学にてワークショップ「対話の促し」に発表者として参加しました。2021年には鯖江市図書館文化の館における、さばえライブラリーカフェ「西洋絵画からひもとくメルロ＝ポンティ思想」に講師として参加しました。